

会派 レポート

会派の活動

町では、議会議員の調査研究に資するため、必要な経費の一部として、議会の会派に対して政務活動費を交付しています。

民間感性で管理運営 新緑会

代表 堀江 美夫 佐藤 和也
方川 克明 山川 光雄
不破 尚美

10月27日、中標津町の「一般財団法人中標津文化スポーツ振興財団」の事務局がある、



中核施設「しるべつと」を訪問。町より指定を受け、公の施設の管理運営を行うに至った経緯や、事業内容について伺った。コロナ禍の中、快く視察を引き受けて頂いた財団に感謝をしながら、町職員OBで専務理事の事務局長と、職員の方から説明を受けた。

「しるべつと」は、文化会館機能と公民館機能、図書館機能を備え、町の文化活動の拠点となっている。他に

も運動公園、プール等のスポーツ施設を含め50施設の管理運営をしている。

文化協会、体育協会 別々の団体が合流

昭和30年代設立の文化協会、体育協会の別々の団体が、平成3年に合流し設立された財団は、当初、町職員が事務局を委嘱されてスタート。

財団の管理後 利用者増経費削減

今は専務以外は財団独自の職員で運営され、初めて指定管理者となった平成18年から、利

人と自然のあり方は

公正クラブ

代表 鴨川 清助 山本 忠淑
松浦 波雄 新村 裕司

用者は大幅増。管理費も平成28年度から30年度にかけては、20%減を実現。民間発想での運営の重要性を深く感じた。



10月27日28日、網走管内斜里町にて視察調査を行った。知床半島は秘境として全国に名をはせる一方で、保護が開発かで揺れ続けた。開発を進める国と、森の復元を目指す有志による「しれとこ1000平方メートル運動」との拮抗であった。

生態系と生物多様性 世界的価値認められ

2005年、知床は世界自然遺産に登録された。尽力した自然保護派の当時の町長、午来昌氏に話を伺った。1987年に開発容認派の現職を破って町長に就任。それを機に国の方針も保護へ。遺産登録までは決して容易な道ではなかったが、地域の自然保護体制の充実が後押しとなった。

団体型から個人型へ
通過型から滞在型へ

斜里町役場では観光業の現状と対策について伺った。従来のイメージから脱却し、自然を体感してもらおうワールドとしての価値を高めていきたいとのこと。コロナ禍の需要喚起策も体験型観光に目を向けている。

十勝も日高山脈襟裳国立公園の国立公園指定に向け新局面を迎えており、広域連携で新たな観光需要を掘り出していきたい。

リモート研修フル活用

創成会

代表 阿部 秀一

会派の活動について



は、昨年、北海道大学政策大学院における地震等有事の際の災害対応等研修受講、本年、コロナ禍において、他の地方議会議員とのオンライン会議、Eメールでの打合せ、調査、資料提供、他の地方議会傍聴、同様に他の自治体職員とのEメール等、他の自治体の地域創生拠点である道の駅、

総合防災訓練、移住相談状況等視察のほか、民生常任委員会、議会運営委員会、第6期総合計画等調査特別委員会議案、予算(補正含む)、法令、条例、政策事例集の学習、研鑽を実施しており、今後よりよい活動ができれば、御理解願います。

定期会合・勉強会を開催

令和の会

代表 宮村 哲 坂本 夏樹
上野 美幸 平子 勇輔
小澤 直輝

令和の会では、11月に視察の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みて、今年度は視察を見送ることとした。

会派の主な動きとしては、定期的に会合を開催し、新型コロナウイルス感染症への対応や各委員会の状況など、担当を決めて協議している。

更に議員資質向上のため、勉強会を開催し活発な意見や議論がなされ切磋琢磨している。勉強会では、行政関連の書籍を購入し、書



「議会だより」について
ご意見をお寄せください

Tel 42-2111
Fax 42-3575

籍等を活用しながら日々更新される政策課題を学び、町の課題解決や町の発展に取り組むため、様々な事案を検討している。

今後は、オンラインも積極的に取り入れながら、会合や勉強会も充実させ、さらに町民から信頼される会派を目指していく。